

稚内市

山下 曜

1. 概要と位置

地名の由来と歴史

稚内市は、アイヌ語の『ヤム・ワッカ・ナイ』（冷たい水の出る沢）が地名の由来です。日本最北端に位置する稚内市は、宗谷海峡をはさんで東はオホーツク海、西は日本海に面し、宗谷岬からわずか 43Km の地にサハリン（旧樺太）の島影を望む国境の街である。この地域は国際、国防上における北辺の要衝として重要視され、港湾として恵まれた地理条件と良い魚場に恵まれ、6 村を管轄する宗谷村を上回る繁栄した。1890 年稚内村、抜海村、声問村の区域をもって稚内村を設置、1891 年に町政が施行された。また、1905 年の日露戦争後、サハリンが日本の領有になってから稚内 - 樺太間の定期航路を開設し、港は重要港として、当時東洋一を誇った築港工事が進められた。大正に入ると鉄道建設も行なわれ、1922 年には天北線、1926 年現在の宗谷本線が開通していった。連絡船も次々就航され、交通・運輸機関が整備された稚内は旭川以北における政治、経済の中心となっていたのである。1949 年、北海道 14 番目の都市となり、1955 年宗谷村を編入して水産業に支えられ今日に至っている。

図1 稚内市の位置



出典：フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

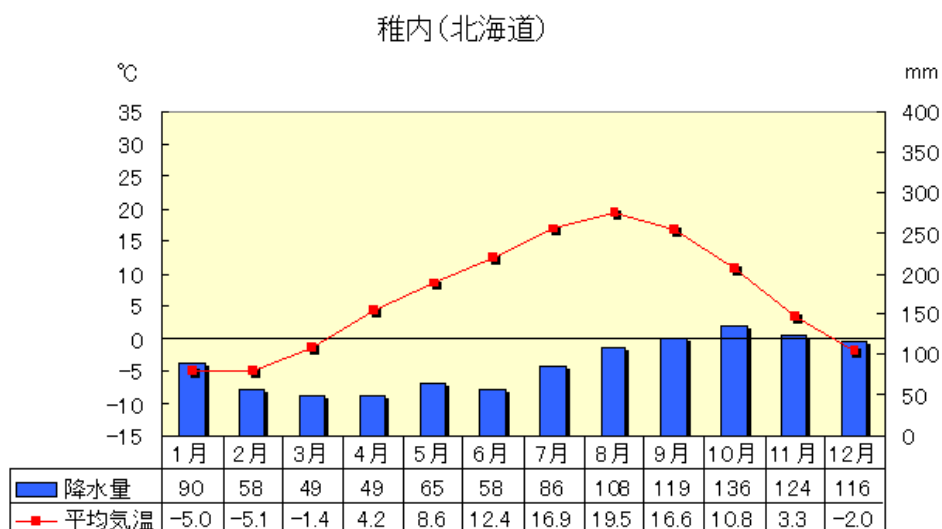
2．地理・気候

緯度・経度 東：東経 142 度 3 分 8 秒 西：東経 141 度 34 分
南：北緯 45 度 10 分 5 秒 北：北緯 45 度 31 分 22 秒
面積： 797.361 平方キロメートル

稚内市は海岸部に位置しているため、海の影響で内陸部の旭川と比べると冬は温暖であるが、反対に夏の気温は旭川に比べると上がらない。また、冬には体感温度は計測されている温度よりも低く感じられる。これは、北西の季節風の影響で強い海からの風が強いいため、冬期間は暴風雪警報などがよく出されている。

降水量の変化を見てみると、9 月から 1 月頃にかけて降水量が多くなっている。これは、秋から冬にかけて冬型の気圧配置が強まり、日本海で生成された雨雲や雪雲の影響により雨や雪が断続的に降るためである。これを時雨（しぐれ）と呼び、北海道の日本海側特有の天気となっている。

図2 稚内市の気候



出典：稚内市 HP

3．人口・世帯数

2005 年 12 月末日現在

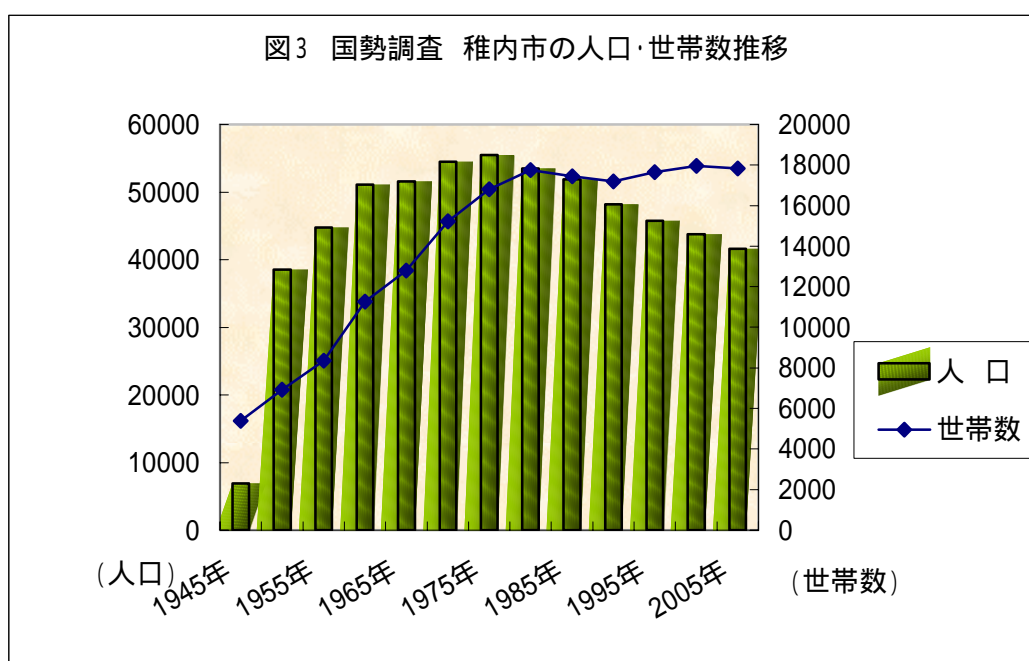
人口：41885 人 男：20678 人 女：21207 人

世帯数：19136 世帯

人口は、1970 年代後半から年々減少している。世帯数は、1985 年～2005 年まで一時的

に減るものの、あまり変わらず推移している。

近年、人口が著しく減少している要因は漁業従事者にあると考える。後に水産業のところで紹介するが、1977 年からロシアによって 200 海里水域が制定され、水揚げ高は落ち込み、多くの漁業従事者は満足に従来と同じようには仕事を続けられなくなった。それは図 3 を見ればわかる通り、1975 年をピークに人口は減少。資源の減少によって、漁業に携わる人々の数も年々減少していったのだ。それに対応した形で、人口は減少の推移をたどっていると考えられる。



出典：宗谷支庁 HP

4 . 産業

稚内市の産業別人口を 2000 年のグラフをベースと 1970 年からの推移データをもとに見ていきたい。

第一次産業は、漁業の比率が高く、次に農業が続く。1970 年からのデータを見ると、年々減り続けている。農業、林業、漁業のすべてにおいて、1970 年のデータと比較すると 1 / 3 程度になっている。30 年の推移からわかることは、第一次産業は、全体的にどんどん減ってきていることは確かだが、第一次産業の中心は依然として漁業であると言える。

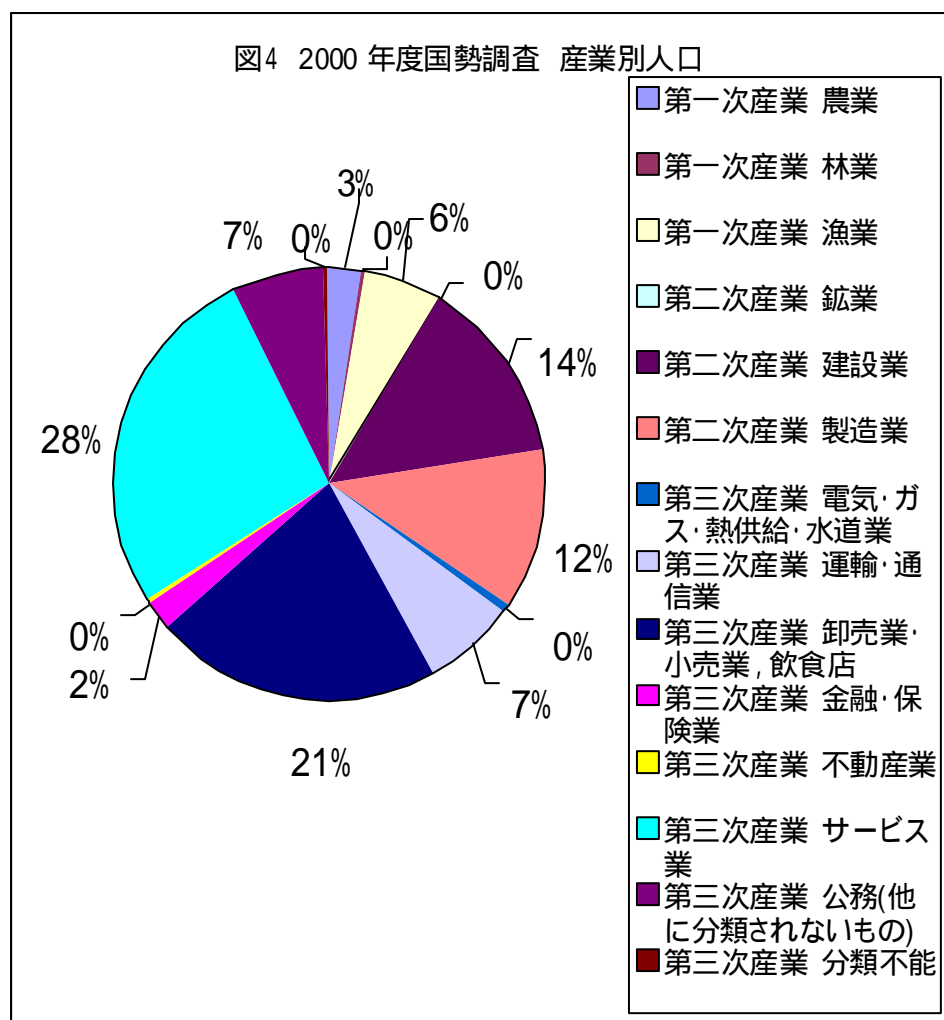
第二次産業は、少しずつ減ってきているが第一次産業ほど顕著ではない。しかしながら、大きく減ったのは製造業の 1970 ~ 1980 年の時で、そのころは稚内を大きくしていくために活発な建設をし、漁獲量が今とは違ってかなり多かったために多くの加工工場なども存在したからではないかと考えられる。1970 年に 200 海里水域が制定されると同時に、右肩下がり製造業は推移している。

第三次産業は、第一・二産業とは違い、少しずつ人口は増えている。特にサービス業は他の分類ではほとんどが減少して推移しているのに対して、1970 年のデータと比べて 1.5 倍に増加しているのだ。

また、2000 年産業別人口の割合は、それぞれ第一次産業は 8.6%、第二次産業は 25.9%、第三次産業は 65.2%である。

まとめとして、漁業が全体に占める割合が 6%とイメージとは違い、そこまで大きい数字ではない。しかしながら、卸売、小売店、飲食店などの製造業の数値は高く、年々減ってきているものの水産加工品などの水産業の割合がやはり高いことは見て取れる。つまり、基幹産業は水産業であると言える。

現在は、稚内観光協会と連携して稚内の産業を発展させていこうという動きもある。



出典：宗谷支庁 HP

5．水産業

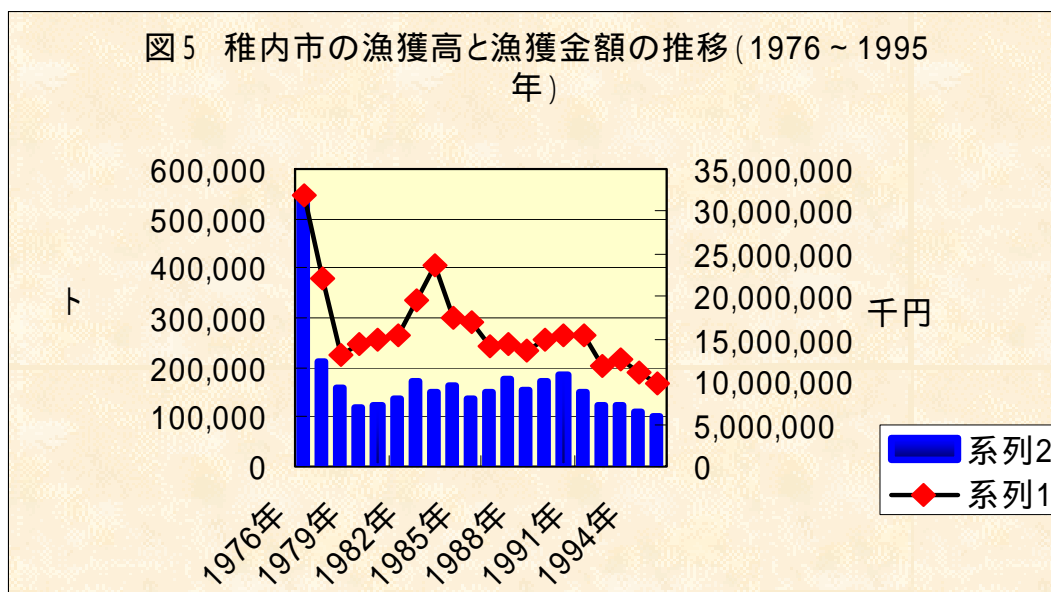
稚内市の水産業は沖合漁業、沿岸漁業、それに係わる水産加工業から成り立っており、基幹産業の一つとして地域発展に大きく寄与してきた。

90 キロメートルの海岸線に、2 港湾・7 漁港を有し、沖合・沿岸漁業が共存しながら発展してきたが、1977 年のソ連の 200 海里設定により、沖合漁業が北方の漁場から締め出されたことで、沖合船の大幅な減船を余技なくされ、大きな打撃を受けることとなった。

その後も、国際的な規制の強化、輸入水産物の増加による産地価格の低迷、資源の減少、漁業者の高齢化や担い手不足などにより、厳しい情勢が続いている。

日本列島の最北端に位置する稚内市は、日本海とオホーツク海、ふたつの海流が交差する豊かな海産物の宝庫であり、産業別では、第 1 次産業の 70%以上が漁業従事者で、漁業はまちを支える大切な力となっている。

200 海里規制が敷かれる沖合漁業では、隣国ロシア連邦との必然的な関わりのなかで、新たな活路を見出す努力を続けており、沿岸漁業では限りある水産資源を守り育てる栽培漁業を目指した新しい漁業形態が定着している。しかし、これからまだまだ発展の余地はある。



出典：稚内市 HP

6．観光

稚内市の観光スポット・名所

日本最北端の地の碑

宗谷岬の先端、北緯 45 度 31 分 22 秒の日本最北端の地を標す記念碑である。北極星の一稜をモチーフに、中央には北を示す「N」、台座の円形は「平和と強調」を表しています。海に向かってこの地に立つと、前方三方が海、正面に 43Km 先のサハリンの島影が浮かび上がり、日本の最北端であることを実感させられる。

図 6



出典：稚内観光協会 HP

間宮林蔵の立像

初めて日本から樺太に渡り、樺太が島であることを発見した探検家、間宮林蔵の偉業をたたえた立像が宗谷岬にある。一日中、海を眺めて立ちつくしている。

図 7

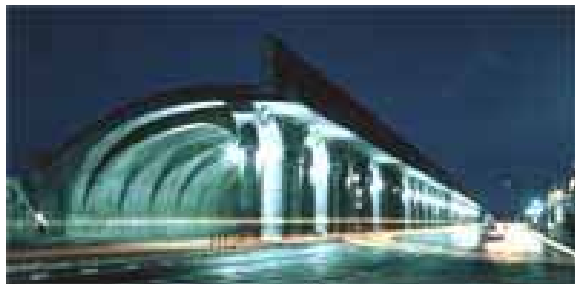


出典：稚内観光協会 HP

稚内港北防波堤ドーム

利尻・礼文に向かうフェリー利用客で賑わう北埠頭のシンボルで、強風と荒波を防ぐ全長 427mの世界でも珍しい半アーチ形ドームは円柱 70 本の柱廊風のゴシック建築を模した重厚なデザインである。

図 8



出典：稚内観光協会 HP

参照ホームページ

稚内市役所：<http://www.city.wakkanai.hokkaido.jp/>

宗谷支庁：<http://www.souya.pref.hokkaido.jp/main/>

稚内観光協会：<http://www.welcome.wakkanai.hokkaido.jp/index.html>

あのまちこのまち：<http://www.gds.ne.jp/index.shtml>